

蓬萊町だより

第三十四号

平成4年11月10日
発行 蓬萊町会
編集 者 文 化 部

蓬萊町界限 (その二十九)

現代の原点は江戸にある(いの巻)

林 順 信

◆世にも珍らしい江戸の十大特色

現在の東京の原点は江戸にあると言われる。我々が居住し、歩き、働き、遊ぶ地面そのものが、江戸以来四百年近くも、考えれば道路一つを取っても大した変わりもなくひきずって来ているし、衣食住の生活でも、欧米化があるにしても、大きくは変わっていない。

江戸という都市は、今から三百年以上前から世界にまれに見る大都市であり、消費都市でもある。この江戸の空の下にいる蓬萊町の会報の場を借りて、江戸からの影響などを少し続けさせて頂きたい。

□その人口絶えず世界一、寛永期三十五万、元禄期百万、文化文政期百二十万人、ロンドン、北京、ローマより多い時もあった。

○二百七十年間に、大きな火事だけでも三百、

自慢じゃないが、世界一の火災多発都市。

③ 単身赴任都市の元祖——三代家光の時代に完成した参勤交代で、各大名は奥方と後継ぎは人質として江戸の上屋敷に、自分は江戸と国元とを一年交代(関東の大名は半年交代)だった。江戸の上・中・下の屋敷で仕事をしていた侍は原則として単身赴任だった。

④ 江戸はアメリカの西部と同じく、男性が圧倒的に多く、従って女性が珍重されて、新吉原その他の岡場所(根津門前町をも含めて)大繁昌した。

⑤ ファストフードの普及都市江戸。単身赴任の男たちにとって有難かったのは、街の路上で手っとり早く食べられるファストフードだった。そば、はやずし、稲荷ずし、天ぷらなど、現在でも流行している元祖。

⑥ 庶民は九尺×二間の狭い長屋に——江戸に出て来さえすれば仕事がある。今と少しも変わっていない。信州や越後から出かせぎに江戸に来る人々を、口は悪いが「むくどり」と言った。現在では使ってはいけない言葉。

彼等は棟割りの九尺二間という狭い部屋を借りて住んだ。それでも日本橋や神田といった繁昌の地へは、先輩から後輩へ紹介されないと、とても住むことは叶わなかった。中心地の土地の上昇率の高いことは、江戸期も同じでみんな嘆いている。今に始めぬことぞかし。

⑦ 「江戸っ子の生まれそこない金を貯め」。金ばなれのいいのが江戸っ子の身上。だって火事があれば三年間は仕事は絶えず、金を持っていても、すぐ火災に遭うので、貯蓄する気になれず、「宵越しの金は持たねえ」という浪費家が多かった。

⑧ 世にもまれな消費都市江戸の人口武家六十万、庶民六十万という武家は、奥方から子どもまで、江戸屋敷にいては贅沢な消費生活を送り、町人も経済力にものを言わせて、地方都市にはないほど物資の購入消費は旺盛だった。

「日に三千両の落ちどころ」という僧諺がある。朝の千両は日本橋の魚河岸、昼の千両は日本橋二丁町(幕末は浅草田圃の猿若町)の芝居小屋。夜の千両は北の里、新吉原の千両だった。

⑨ あらゆる生活用品は上方からの「下り荷」家康が江戸に入府したのが慶長十八年八月一日、今から四百二年前のこと。その当初から、天下の台所といわれた大阪をはじめ、伊勢、近江、尾張など西国から船で江戸湾に運ばれたのは、呉服、太物(木綿)紙、筆、墨、酒、味〇から、薬品、漆器、陶器など数えきれない。これ等の物資が、江戸湾から各河岸の土蔵に陸揚げされた。上方からの「下り荷」である。高級品はすべて江戸へ下って来た。下らない品物は品質がわるく、下る様でなければいけない。

「下らない物ですが……」の挨拶文句はここから来ている。現在日本橋の上に立って、四周を見渡して、見える商店はすべて上方出身だ。どこに関東根生いの店があるだろうか。

□ 気ばらしの名人は江戸っ子

元旦の初詣でから、大晦日の除夜の鐘まで、江戸には月々はおるか、絶えずお縁日だとか年中行事だとかお祭りが続いて、三三五五連れ立っては物見遊山や参詣に出かけ、その都度、うまい喰い物屋に立寄っている。レクリエーションの名人で、侍たちにいばられても、経済力は町人の手に、仕事と愛さ晴らしを巧みに使い分けていて、現在の週休二日制のお蔭で、粗大ゴミと化したおやじさん達は、江戸っ子の爪の垢でも煎じて飲んだらいい。三弦に合わせて浅酌低唱して遊んだり、絵や俳句や和歌をものしたり、趣味豊かであった江戸っ子の面汚しをしているのが我々である。……△……………△……………

東京港内の諸施設見聞記

九月十六日（水）蓬萊町会文化部の企画により、東京湾の港湾施設見学会を催しましたところ、42名のご参加を戴きました。出来ればもっと大勢の方のご参加を望んでおりましたが、何分にも平日の事ですので皆様いろいろとご都合がお

有りで、ご参加される事が無理なのではなかったかと拝察致しております。

今回の催しは、東京都の所有船「新東京丸」に乗船して、私達の身近に有りながら、あまり目に触れる事のない東京港とその周辺のめざましく変貌している様子を見聞して戴くのが主眼でした。

当日の前日までは、台風の影響で天候が悪く心配しておりましたが催しの当日は薄曇りながらもまあまあ天気恵まれ、参加の皆さんにご苦勞をかけずに済んで役員一同安堵した次第です。現地集合でしたが、皆さん定時に集合され、早速、「ベルシーヌ竹芝」24階の宴会場にて昼食、晴天であれば、東京港が一望出来る場所ですが、相肉の曇りで霞がかかり、残念でした。

食後、「新東京丸」に乗船、1F会議室に案内され、一脚、30万円と言う椅子に皆さん掛けて出航を待つ、コースは大井の食品埠頭付近でUターンし、豊州埠頭を経由、竹芝係留場に戻る、60分が視察コースです。

コンパニオンは「91ミスポート」の美しいお嬢さんが務めてくれる、水門を出て隅田川へ、後方には勝どき橋、前方には目下建設中の東京港連絡弊、近付くに従って強大な「つり橋」が眼前に迫る。橋の総延長三、七五キロ、航路をまたぐ部分が瀬戸大橋と同じ二層式水面からの高さは52メートル、上が高速道路と歩道、下は新

橋駅を起点に臨海副都心を結ぶ延長12キロのコンピュータによりコントロールされ運行する新交通システムが平成5年末には開業予定である。この橋上から東京港とその周辺を遠望する事も、もう間違い。

船が進むに連れて左右の景観は変わる、私は、この船の就航直後に乗った事があるが、あの当時とは連絡橋は別にして、埠頭全般が拡張整備されたのに驚く、資料によると、貨物量は10年前に比べて46%増加、平成2年の貨物量は七、九三四トンとある、量だけ言われてもピンとはこないが、埠頭に停泊している船は大きく、このコンテナ船の積載能力を説明されて大変な量が取り扱われているのも想像出来るのではないか。

5万トン級のコンテナ船は、三五〇〇〜四三〇〇個のコンテナを積んで海外から輸送出来る言う、この埠頭施設は、東京都が開設し、積み下ろし作業から物品の保管管理まで一貫して、広域行政機能として執行されている事には、都民の一人として感慨深い思いもする。

輸出入貿易の物資の交易によって、私達の日常生活に拘わる食品、その他の資材は円滑に物流されているのであろう。

施設の改良、拡張を日夜暇なく、進めている港湾行政は、私達の目に触れない、大きな陰の力であると改めて感じた。

埠頭、保管倉庫などが立ち並ぶ陸地を眺めている内に、船は大井埠頭の端に到達、ここで船は大きく埋め立て地側に反転、帰路に付く、再度、東京港連絡橋を眺めつつ、豊州、晴海、月島、埠頭を巡りながら竹芝の係累場に戻る、アツと言う間の1時間の船旅であった。

皆さんの無事の帰宅を願って、現地解散、お疲れ様でした。

ご参加の皆様も、この様な港湾施設の稼働が、輸出入貿易を大きく支え、経済活動の「しくみ」の一端を担っている事を再認識されたと思います。

また、皆様に喜んで戴ける様な行事を企画致します、その節には、是非共、近隣お誘い合わせでご参加下さい。
(猪熊良晃記)

町会活動の概要

平成4年7月から平成4年10月中旬まで

総務部

8/9 向丘地区町会連合会、町会長会議、向丘出張所において、議題は、本年度から文京区町会連合会が実施する地域振興事業に対して、区から補助金が支給される事になり、向丘地区としていかなる事業を行うかの検討ですが、本年度は、11月中旬ころに地区皆さんの参加を得

て、ドッチボール大会を催す事に決まりました、期日は未定ですが、その節には奮ってご参加下さい。

☆工事のお知らせ

上下水道工事、区間、弥生一↓向丘二↓千駄木一の間、上期、平成4年7月から平成5年8月まで、(東京都下水道局)

2.公衆使所改修工事、場所、長元寺塀際にある公衆使所、工期、平成4年11月から平成5年3月末まで、(文京区役所)

工事期間中は使用出来ません、新しい公衆使所は身障者の方も使用出来るように改修されます。

9/19 19日、20日、根津神社の祭礼に際しましては、町内の皆様からご寄付を頂き、盛大に町内の祭礼を営む事が出来ました、ご厚志に深く御礼を申し上げます。

なお、祭礼会計は巻末に掲載してございます、ご一覽下さい。

10/6 「区長と区政を話し合う集い」が向丘出張所において開催

10/19 本日からシビックセンター建設に伴う、電波障害除去の対策である有線引込み工事が順次行われます。

該当地域に当たる方は、円滑に工事が進行する様にご協力願います。

防火防災部

9/29 本郷防火協会、理事会が開催される。

交通部

9/21、30 「秋の全国交通安全運動」が行われた

この旬間には、交通部員、婦人部、友の会会員の皆さんに連日街頭にて交通安全の普及に頑張って頂きました。

文化部

7/30 「蓬菜だより」第33号、発行

9/16 東京港の港湾施設見学会実施

婦人部

9/7 「敬老の日」の恒例行事「はげ天ぶら会」が本年も海蔵寺において催され、婦人部員全員で手伝いをさせて頂きました。

10/1 「共同募金」に際しましては、相変わぬ皆様のご厚志により左記の金円を募金会に納付致しました事を報告申し上げます。

金 一八一、三〇〇円

青年部

9/20 祭礼の神輿渡御の担ぎ手の人員確保につきましては、当初集まってもらえないので

はと大変案じておりましたが、町内の皆さんが競って参加に応じて頂きました事、感謝致しております。

町内の神輿は自分達で担ぐという意気込みで、次の祭礼にも是非ご参加願います。

7/12・8/9・9/6・10/4ストレッチ体操会を開催しました。

7/26 「工作教室」を向丘高校正門広場で開催しました。

計 報

当町会にお住まいの方で、今年の7月下旬から10月までの間に逝去された方々のご氏名は左記の通りでございます。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福を祈念申し上げます。

記

天方正幸様 吉崎米子様 室屋利雄様
森 末代様 池田敏子様

編 集 後 記

秋も大分深まって参りましたが、会員の皆様にはご清祥にてお過ごしのことと存じます。何と云っても健康が第一、お体には十分ご自愛なされてご活躍願いたいと思います。

編集委員 前号と同じ

お 報 ら せ

このたび根津神社の総代改選に当り、当町会として左の方々にご就任願いました。

常任町総代 青木梅太郎

広沢長次郎 池田 暉

小川 義信 猪熊 良晃

富永 光子

町 総 代 小林 音吉

川西 正造 加藤 鞆美

高橋 一郎 橋本 明昭

堀江 廣明

蓬 萊 句 壇

月明り源氏襖の腰絵まで
昏色の濃き山脈に霧流る
葬儀屋と会釈を交はす今朝の秋
夫に聞くべったら市の賑わいを
夕ぐれのはだか樹林の秋さびし
福招ねくべったら市にまぎれ込む
秋さびや鳴子こけしの肩細く

喜 一 禮 子 向 雪 す え 千 重 清 太 郎 連 木

平成四年 根津神社祭礼収支明細

収 入		支 出	
前期繰越積立金	900,000	奉納関係費	160,000
前期繰越普通預金	48,331	施設関係費	457,878
寄付入金	2,427,500	寄付関係費	156,070
雑収入	1,000	渡御関係費	1,261,519
鉢洗会費	37,000	保存関係費	143,200
繰越金より借入	95,000	雑費	57,098
立替金(加藤)	265	次期繰越金	73,331
		平成4年積立金	300,000
		昭和59~平成2積立金	900,000
	3,508,831		3,508,831